

本校女子バレーボール部が南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

鹿児島国体の開幕が間近に迫っているが、各地には国体に負けじと競技に励み、楽しむ人は少なくない。北薩地域で頑張る人や団体を紹介する。

## エリア特集

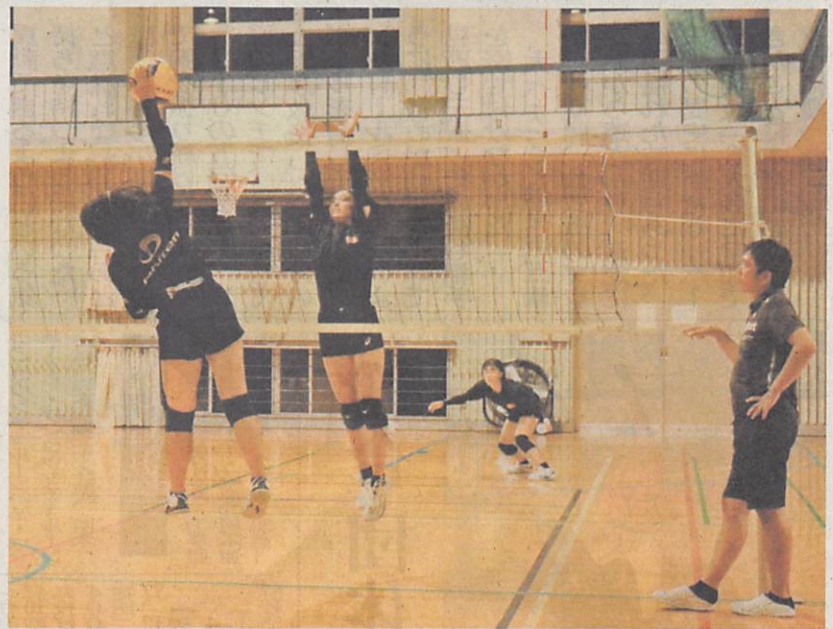
### 薩摩中央高女子バレー部



## 今春活動再開 まちの活性化に期待

休部中だった薩摩中央高校(さつま町)女子バレーボール部が4月から活動を再開し、今夏の県高校総体で上位をうかがうなど注目を集めている。町内唯一の高校だけに地元の期待は大きく、選手たちはまちの活性化にもつなげようと飛躍を誓う。

現在は1年生11人で活動中。顧問の松井正太教諭(48)のもとでバレーに打ち込み、町内に限らず薩摩川内市や離島から集まった。先輩がいなかったため各部署は自主性が一層求められ、練習では積極的な声をかけ合う。県総体では1年生チームながらベスト16に入った。



日本一を目指す薩摩中央高女子バレーボール部。練習に励む薩摩中央高女子バレーボール部。さつま町虎居に入った。

休部期間が長かったため、練習用具も不足。事情を知った地元企業や卒業生から、ボールやサポーターの寄付があった。部員らは茶畑の草取りや苗作り、鹿児島国体の炬火リレーなどに参加して地域とのつながりを深める。

町内の小中学生のバレーはレベルが高いものの、これまで受け皿がなく町外に進学する生徒は多かった。バレー部の活躍が定員割れの続く同校の生徒増にもつなげれば、と地元からは期待が聞かれる。主将の下園美優さんは「3年時には全国優勝が目標。結果を出すのが地元の人たちへの恩返しになる。さつま町を盛り上げたい」と話した。

(山田天真)

総局を中心に広域の話題を取り上げます